

平成24年度 自立心を育む体験プログラム
教育事業「～海から山へ塩の道をたどる～」

1 趣旨

能登から乗鞍へ塩の道をたどる旅を通して、地理や歴史を学ぶと共に5泊6日の宿泊体験を通して自立心を育む。

2 ねらい

- ・ 集団宿泊体験を通して自立心や協調性を養う。
- ・ 塩の道をたどり様々な見学・体験活動をすることで、能登・飛騨地方の歴史や文化を学ぶ。

3 日程

- (1) 期 日 平成24年7月25日(水)～7月30日(月)【5泊6日】
- (2) 参加者 36名(石川県18名, 岐阜県18名) ※募集各15名(計30名)
- (3) 研修内容及び講師

7月25日 (水)	午後	○開講式・入所式 アイスブレイク 指導:能登青少年交流の家職員 ○実習「スノーケリング・海中散歩」 指導:アクアマリンインスター ○学習会・交流会 指導:能登青少年交流の家職員・ボランティアスタッフ
7月26日 (木)	午前	・石川県珠洲市塩田村へ移動 ○見学 輪島市千枚田
	午後	○実習「製塩体験 揚浜式塩作り」 指導:すず塩田村職員 ○実習 はがき作成 指導:能登青少年交流の家職員
7月27日 (金)	午前	・能登交流の家を出発 岐阜県高山市乗鞍青少年交流の家へ移動
	午後	○見学「白川郷 国指定重要文化財和田家」 講師:和田正人氏 ○学習会
7月28日 (土)	午前	・乗鞍バスターミナルへ移動 ○実習「乗鞍剣が峰登山」 講師:瀬木紀彦氏
	午後	○実習「乗鞍剣が峰登山」 講師:瀬木紀彦氏 ○実習 はがき作成 指導:乗鞍青少年交流の家職員
7月29日 (日)	午前	○講義・演習「塩の道・能登式製塩土器について」 講師:押井正行氏 ○実習「野外炊飯 カレーライス」 講師:乗鞍青少年交流の家職員
	午後	○実習「キャンプファイヤー」 講師:乗鞍青少年交流の家職員
7月30日 (月)	午前	○閉講式・退所式 ・乗鞍交流の家を出発 石川県金沢市へ移動
		・JR金沢駅着 解散

4 成果と課題

- (1) 事前・事後アンケートによる事業評価

この体験活動における教育効果を図るために I K R 評定用紙を使い、アンケート調査を

実施した。その結果を反復測定による一元配置分散分析法で「生きる力」について心理的社会的能力・徳育的能力・身体的能力の3つの項目に分けて調査し、統計学的に分析を行った。

参加者のほとんどが、明確な目的意識をもって参加し、互いに尊重し合うなど、心の育ちが見られる児童であったため、顕著な優位性は見られなかったが、全ての項目において数値の向上が見られた。

(2) 成果と課題

《成 果》

- ・ スノーケリング、製塩体験、登山、野外炊飯などの活動を計画的に配置したことで参加者の心の成長が見られた。スノーケリングを通して自然の中で互いに心を開き、製塩活動に取り組む中で徐々に協力し合うようになった。剣が峰頂上を目指して共に励まし合い、全員登頂したことで信頼関係が生まれた。野外炊飯では、その信頼関係の中で失敗を恐れずに、それぞれの役割に進んで取り組んだ。本事業の中で見られた、初対面の相手とも信頼関係を築く、自分の役割に進んで取り組もうとする等の参加者の姿は、本事業が「生きる力」を育てるために有効であることを示した。
- ・ 事業を通して、講師やボランティア等の様々な大人からの指導があった。よい活動にしようとする説明を真剣に聞き、適応行動をとるなど、好ましい変化が見られた。体験の中で人とかかわる機会を位置付けた活動が、心理的社会的能力を高める機会となった。

《課 題》

- ・ 晴天が続き、活動中の気温が高くなった。元気に活動することができたが、水分補給のタイミングや方法、体調を崩した参加者が出た場合の処置についてより一層の工夫をしておく必要がある。
- ・ 海辺ならではの特色ある体験を行うために、石川県立能登少年自然の家などと連携を図るなど、よりよい活動プログラムを工夫したい。
- ・ 体験活動の補助、安全の確保、参加者の心のサポートなどのために、ボランティアスタッフの力も借りる必要がある。学生ボランティアが参加しやすいように事業日設定で配慮が必要である。



実習 『スノーケリング・海中散歩』



実習 『乗鞍剣が峰登山』